

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270200932		
法人名	特定特定非営利活動法人 縁(ユカリ)会		
事業所名	グループホーム ゆかりの里		
所在地	千葉県花見川区千種町380番地8		
自己評価作成日	令和2年2月5日	評価結果市町村受理日	令和2年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	令和2年5月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

* 沢山のボランティアの方達が行きかいお世話になっております。散歩ボランティアさんが月3回3~4名の方が同行して下さいます。寒いけどやっぱり外の空気は良いね。横橋公園・ふるさと農園・横橋高校一周しております。重度化しておりますが、今の季節着込んでいただけます。クリスマスではスタートの段階より料理・盛り付け・セッティング迄受け持ってください地域でのつながりを強く感じております。
 * 今年はミャンマーから2名技能実習生を受け入れ教える方も教わる方も一生懸命です。入居者の皆様は若いお姉さんと共に歌を唄い踊りを見ながら楽しみ、落ち着いた雰囲気です。
 * 自然に恵まれた環境で散歩時は高校生・近隣の方達に言葉を交わし「元気だね〜」笑顔で応え、エネルギーを沢山いただいております

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「人権の保障、家庭的な環境、生きがい支援」をキーワードとし、利用者の尊厳を大切にしたい支援に取り組んでいる。地域との付き合いも大切にしており、地域のマラソン大会を見学したり初詣に出かけたり、外出ではボランティアの力も借りながら、近隣の公園や高校の周りを散歩している。近隣住民には運営推進会議のメンバーにもなってもらうなどしており、災害時の協力を申し出ている。医療との連携もよく取れており、月2回の訪問診療や週1回の訪問看護のほか、訪問歯科や利用者によっては訪問マッサージを利用している。看取りにおいても、在宅診療の医師と連携している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は困ったときに、いつでも見えるように事務所に掲示、利用者が本人らしく生活できる様に日々現状を把握しながら進めている。又スローガンはふれあう心がお互いに嬉しい、支えあっているよ、、、	理念にある「人権の保障、家庭的な環境、生きがい支援」をキーワードとして大切にしている。職員会議などで方向性がずれたときは、管理者は理念に立ち返ることを話すなど、軌道修正をするようにしている。	
2	(2)	千葉県花見川区千種町380番地8 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	16年目に入り重度化、現在はボランティアの協力得てホームに来ていただいている。又散歩ボランティアさん同行によりふるさと農園・こてはし公園に出かけ地域との交流を図っている。	自治会に加入し、正月のマラソン大会や初詣などの行事にも参加している。近隣住民とも良好な関係であり、火災などのときには駆けつけてくれることになっている。また、ボランティアも多数受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の理解や支援方法は地域の方達とのやまびこ推進会議の中で発信している。会議の中では意見をいただき学ぶことも沢山あります。中学校の職場体験受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は近隣の方、安心ケアセンター、民生委員、犢橋高校、ふるさと農園、自治会の方達、家族会、多様な方の意見に学び有。高齢化した地域の課題に協議をすがるが踏み出せないのがもどかしい。	運営推進会議は3か月に1回開催している。ホームの運営や身体拘束廃止委員会からの報告などをおこない、意見交換をしている。会議の内容などはさらに工夫するとよいと思われる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	あんしんケアセンターとは日頃より連携を取り空所等にも協力をいただいている。	地域包括支援センターと連携が取れており、運営推進会議に出てもらったり、利用者の入所の件などで相談することもある。市の担当課とは感染症対策などで随時相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束と思われるものは約束事としてしないと取り決めている、現在は皆様落ち着いており日中は玄関も施錠しないで、見守りで安全を確保し自由な空間を提供している。	身体拘束をしないケアを実践しており、車いすはあくまで移動の手段としている。言葉遣いにも注意し、否定的な言葉を使わないこととしている。職員研修では「身体拘束ゼロの手引き」を読み合わせ、具体的な行為などを確認している。	
7		管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一人ひとりの見守り強化、細かいことを見逃さないよう記録に残す。小さなあざや傷等時々見かけるが、会議の中で意見交換し再発防止に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している方がおり管理者は社会福祉士として在宅の方を成年後見制度を受任している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	制度改正時は2度にわたり書類で説明。来園者には口頭で説明している。元年11月に最終的にご理解・納得の上、同意書を送付いただきました。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	やまびこ推進会議にご家族も参加、来苑時は入居者の様子を話し意見交換している。広報発行時写真の同意はスムーズにいただきました。	家族の面会時には声かけし、利用者の様子を伝えたり話を聞くようにしている。運営推進会議には家族も参加しており、意見を聞く機会がある。なお、外部の苦情相談窓口については、家族会や運営推進会議などで改めて周知することもよいと思われる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間の提案は会議で話し合っている。その中で決まったことは議事録に記載し、全員が目をとおり納得の上で実施している。	職員会議で意見や提案を聞いており、話し合っただけで決定したことは全職員で取り組んでいる。随時個人面談もおこなって、相談などに乗っている。管理者は職員の意見を尊重した運営に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	入職時就業規則・給与面、特に大切にしている理念など、職場環境には気づかしている。一人一人に声掛けし、話を聞く様になっている。頑張っている方には言葉をそえて給与にも多少差をつけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議の中では新人が入るとオリエンテーションをし注意事項や認知症に対して話し合う。人権の尊重・緊急時の対応・身体拘束・虐待等研修の中で再認識しながら取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会にて連携を取り横のつながりを持ち質の向上に生かしている。千葉市連絡会の方達とも連絡しあい勉強会・サービスの向上に努めている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今年度はミャンマーから技能実習生が仲間入りし、言葉の習得は全職員が関わる。介護はリーダーがしっかり指導、本人の立場で試行錯誤しながら気持ちを手繰り寄せ不安や訴えをくみ取る工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の要望は来苑時声掛けし、ゆかりの里での生活を話し、不安なことはないか確認しながら関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学の段階から在宅で一番困っていること、入居してからの不安を聞き、ゆかりの里での暮らしぶりを説明し見学していただいている。ご家族と共に支援する事話し合う。		
18		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に支えあい入居者には沢山手伝っていただいている。お茶碗洗い、テーブル拭き、洗濯物タタミ、雑巾縫い等、ありがとうございます沢山行きかいます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に連れ出しをお願いしたり、本人が喜びそうなことを提案したり家族との絆を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠いご親戚の方が来たり、職場で働いた同僚がきたり馴染の方との関係性を大切にしている。家族と一緒に外食や墓参りに行った人がおり私たちもうれしく思っている。	入居前に住んでいた家の近所の人や、職場の同僚が訪ねてくる人もいます。また、電話を取り次いだり、手紙のやり取りを支援するなど、これまでの関係性が継続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の差はありますが、中には利用者が声掛けをしてくれたりほほえましい風景もあります。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスを終了(入院中の妻)してもお見舞いに行ったり、最近亡くなられたと報告を受ける。ご主人(脳梗塞軽度)はその後もホームに来てくださり、娘さんに経過を聞いたり支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの想いには応えられていないが元気な方には工作・壁面飾りをしていただいたり食後のかたづけをお願いしている。	認知症の進行により会話が徐々に減ってきているなかで、職員は本人がどんな事を喜ぶかなど、仕草や様子で利用者の思いや意向の把握に努めている。把握した内容は、ケース記録や介護日誌に記録し、職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時は馴染みの物をお持ちくださいと話す、生活環境、暮らし方の把握に努めている。入居者の皆様は昔はこうだった、話はずきぬくらい出て共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中はホールで過ごす方が多い。疲れると部屋で横になる。「今日は何をするの～」と声係るときもあり。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の申し送りや職員同士の情報交換を行って、家族や本人の意向をくんで楽しい生活をおくれるように努めている。	アセスメントを基に担当者会議で職員の意見を聞いたり、記録などを参考にしてケアマネジャーが作成している。3か月に一度居室担当者とケアマネジャーでモニタリングをおこない、6か月に一度見直している。介護計画は職員会議で共有を図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りや介護記録等で日々の様子を把握して職員での情報の共有を図っている。		
28		本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の状況・希望をきいたり、体調の変化や退院時の状況を考慮して時々に応じた支援をしている。ご家族の希望する病院の変更、時により看取りの支援をしている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアさんが12人(散歩・傾聴・音楽・読み聞かせ)関り、ゆかりの里の入居者との関りが楽しいと言ってくれる。職員も元気をいただきながら認知症の方達との現場は笑いが満載です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療月2回、訪問歯科、訪問マッサージ等気になる箇所は事前に連絡、通院も利用者に応じて支援、又終末期には在宅診療の先生にお世話になっている。服薬も職員の意見を取り入れ支援している。	訪問診療、訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージなどが定期的に来訪して利用者の健康管理をおこなっている。訪問診療、訪問看護は24時間のオンコール体制になっており、医師との連携が取れている。専門医の受診は家族に対応してもらっているようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と契約し日々の健康状態見ていただく。又身体面・精神面での相談にも対応していただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症があり病院で対応できないという方もいたり又精神薬入ると進んでしまう方もおり病名によって服薬で対応できるのであれば早めの退院をお願いしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期の対応について話し合い同意を頂いている。一度同意してもいつでも変更できる事伝えている。実際の終末期は再度ご家族・職員・主治医の3者で話し合い要望により在宅診療医と契約しターミナルに取り組んでいる。	重度化した場合の指針があり、契約時に家族に説明して同意を得ている。経口摂取が難しくなった時点で、家族と職員、医師で話し合い、希望に沿って終末期のケアをおこなっている。看取りケアの研修を実施し、ケアの終了後には振り返りをおこなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本となるマニュアルはあるが、それと同時に一人体制時は無理なので理事長・管理者・ホームに近い職員が駆けつけることになっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡には近隣の協力体制が出来ている。消防訓練にも声掛けにより協力体制あります。	年2回、日中や夜間想定避難訓練をおこなっている。近隣の住民とは、緊急時には直ぐに駆けつけてもらえる関係である。また、保存食やカセットコンロ、ボンベ、職員用にヘルメット、利用者用の防災頭巾の他、オムツ、トイレなどを用意している。	災害対策をさらに整備し、避難情報の入手方法や災害伝言ダイヤルの訓練、職員の参集基準などの明確化も期待したい。

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心が傷つけないように声掛け等に配慮している。認知症のため仲間から怒られないよう職員が先に察知しさりげなく対応している。	ホームでは利用者の人権を尊重し、否定的な言葉かけはしないようにしている。また、利用者への呼称は「さん付け」としたり、居室に入る際は利用者に断ってから入るなど基本を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けや問いかけは自己決定できるように利用者目線で話しかけ、拒否があった場合は無理には進めない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課に添って行動しているが、本人の意思を考慮に入れ満足感得られるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容は1カ月に1度訪問、ヘアダイも定期的におしゃれを楽しんでいる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3名の方は積極的にお手伝いをしていて、食器洗い・食器拭き・テーブル拭きは毎日の日課になっている。今日は美味しそうだよ！話を聞くこともある。	ホームの方針として、職員にはケアに専念してもらうため、食事は業者に依頼している。クリスマス会には家族やボランティアと共に食事を楽しむこともある。また、食器を陶器にするなど食事を楽しめるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	朝・昼・夕、起床時、午前午後のテータイムがあり水分は1200～1500cc目安にしている。食事量が少ない方にはエンシュワ缶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導の下、食後の歯磨き、入れ歯の手入れ、磨き残し等の指導をいただきながら支援している。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ・リハパンの使用減にはなっていないが、極カトイレで排泄するよう、排泄パターンを把握し快適な生活となるように支援している。	トイレでの排泄を基本としており、一人ひとりの排泄パターンを把握して、声かけ誘導をしている。夜間は睡眠を重視して、パッドの交換にするなど臨機応変に対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給1,200～1,500ccを取り入れ便秘対策をしている。もち麦・牛乳・寒天を取り入れて予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回以上、入浴拒否の方もおり、職員は声掛け、誘導のタイミングで脱衣所に行けば皆様と同じようにゆっくり湯につかり気持ちよさそうである。	週4日入浴日があり、2回は入浴ができるよう支援している。その日に入りたくないという場合は無理強いせず、翌日に入ってもらおうようにしている。また、入浴剤の使用や季節ごとの菖蒲湯やゆず湯で楽しんでもらっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ゆかりの里の皆様は早寝早起きの習慣が出来ておりお昼寝をする方1～2名、19時から20時30分と早めの就寝である。朝は早起きで6時30分頃からお腹すいたーと言われて慌ただしいスタートとなります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については理解している。明日の薬は遅番が用意し、夜勤者が確認し、当日の朝・昼・夕の服薬はそれぞれの担当者が確認している。それでも薬が落下していることあり、(口に入れたもの等)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いを喜んで受けてくれる人、毎日編み物している人、歌の好きな人、ゲーム、積み木崩しそれぞれである。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望には添えないが、外出は週2回散歩ボランティアさんの支援で出かける。買い出し・銀行・散歩は寒くなり出かけることを好まない。	日常的な散歩はボランティアが中心におこなっており、車いすの利用者も外出している。時にはホームの用事で出かける職員と一緒に外出したり、家族と外食に出かける利用者もいる。	

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の件は話に出るが、お金を持ちたいとか、買いたい等は忘れている。買い物に行っても見て楽しむ方達です。ペットショップは人気があり離れがたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話す方は4名、手紙を書く方は1名届いた手紙を何度も見て喜び又私達にも見せてくれる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬場は採光を取り入れたホールは暖かい。時間によってはまぶしいので場所を変えたりしている。	リビングは天井に明り取りの窓が付いており、明るく居心地のよさそうな空間である。大きな掲示板には、利用者と職員が折り紙で作った季節毎の作品を飾っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	最近ホールのソファに座る人がいない。就寝前のひとときをスタッフと共にすわり会話をたのしんでいる。テーブル席は気の合う利用者同士が座れるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	お部屋には趣味の作品を飾ったり、写真を飾ったりしている。職員に褒められるとうれしそうである。	居室にはテレビやタンス、仏壇など、利用者の大切なものが持ち込まれており、中には自分の作品を飾っている人もいる。居室の清掃は、可能な人には自分でやってもらうように促している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の力量によりお手伝いをお願いしている。暖かい時期には草むしりも手伝ってくれる。		